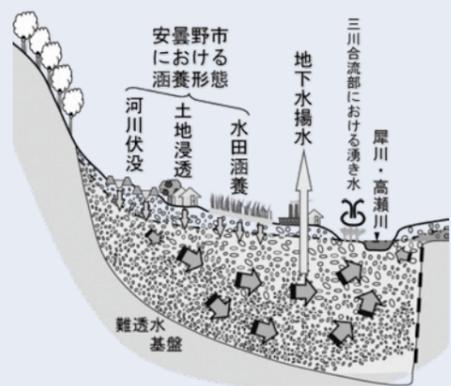


安曇野の地下水の仕組み

安曇野の地下水は、「広大な松本盆地への降水が浸透（土地浸透）」「河川を流れる途中で浸透（河川伏没）」「農業用水路網を介し水田に湛水されて浸透（水田涵養）」等により育まれます。併せて市外からの地下水流入が合わさり、市の地下水となります。揚水された残りは、三川合流部において湧き水として多量に湧き出します。

信州大学が行った可視化研究で、地下水の流れを可視化すると、市の三川合流部に集まる地下水は、盆地の上下流の河川（大町市の高瀬川や松本市の梓川等）から流れてくることが分かりました。



地下水を利用する皆さんへ 井戸の設置状況など届け出を

水収支バランスの改善を図るには、地下水揚水量を正確に把握することが大切です。条例に基づき、次に該当する場合は、市に届け出・報告をお願いします。

詳細は環境課へ問い合わせください。

1. 井戸の所有者、借入者
 2. 地下水利用者（1日10³ℓ以上）
- ※前年度の取水量を毎年5月31日までに報告してください。
3. 井戸の新設や増設時



6つの施策（個別目標・具体的な取り組み）

水資源の保全・強化・活用のための施策

1 水を貯める・育てる施策

地下水の減少傾向を食い止め、強化して次世代に引き継ぐ

【取り組み】 モニタリングなどの調査研究、水収支の公表、新たな涵養手法の研究など

2 水を上手に使う施策

限りある地下水を適正に活用しながら次世代に引き継ぐ

【取り組み】 揚水と水利用の適正化への意識啓発、再涵養方法の検討と手引き等の作成など

3 水を清らかなまま維持する施策

地下水を良質な水質のまま保全して、次世代に引き継ぐ

【取り組み】 水質に関する調査・公表・分析、水質保全活動の開催など

4 水を大切に誇りに思える施策

地下水を安曇野の大切な資源と理解して次世代に引き継ぐ

【取り組み】 水環境に関する広報、学校・地域教育を通じた郷土愛の醸成、名水の価値向上

5 地下水保全・強化・活用を支援する社会システムの構築

取り組みを円滑に進めるための環境づくり

【取り組み】 地下水涵養等に関する費用負担ルールの確立に向けた研究など

6 推進のための体制づくり

持続可能な取り組みのための体制づくり

【取り組み】 計画の評価・施策の運用管理、資金管理体制・運用管理団体設立の検討

施策の実現に向けた環境づくり

この計画は、「第1次市総合計画」に示される基本理念や将来像、「市環境基本計画」での各種の取り組みを水環境の側面から実現する計画として位置付けられます。計画に基づき地下水を市民共有の財産として、持続可能な水環境の形成や、水資源を有効活用するための保全・強化施策について地域全体で取り組みます。

計画期間は、平成29年度から38年度までの10年間で、計画の短期的、重点的施策を位置付ける行動計画（アクションプラン）は5年間とします。基本計画と行動計画は、中間年次と目標年次にそれぞれ見直しを行います。

安曇野の名水は、国の「名水百選」「水の郷百選」に認定され、2016年名水百選選抜総選挙（環境省主催）では、「景観」「観光地」の2部門で日本一となり、2冠を達成しました。昨年には、環境省から市の水保全活動が認められ、全国自治体で唯一「奨励賞」を受賞しました。

この安曇野の名水を次世代に引き継ぐため、市民、事業者、行政が計画の目的を共有し、主体的に取り組めます。市民の皆さんは、健全な水循環を守り、育てるために、節水など、できることから取り組みをお願いします。

なお、計画の全編および概要版は、市ホームページまたは、環境課（2階5番窓口）で入手できます。

環境課環境保全担当
TEL 71・2491 FAX 72・3176

水環境保全に向けての基本的な考え方

「きれいで、豊かな、おいしい地下水資源が将来的にも安心して活用される安曇野」を目指して下記の基本理念と4つの視点から施策を展開し、水環境や水資源の保全に取り組みます。

基本理念

いにしえ
～古から、水とともにある“あづみの”の現在と未来～
いま これから
『水は、次世代からの預かりもの』

保全・強化・活用
水環境保全と地域活動の好循環化を図ります。

水収支
バランスの
改善

段階的な展開
できることから着実に達成し、継続していくことに重点をおきます。

流域連携

市が主体的に取り組み、将来の流域連携に展開します。

地域参画

地域全体の主体的な参画を促し、協働により取り組みます。

目標設定

平成38年度の
人為的な地下水涵養量

年間 **300** 万トン

水資源の保全・強化・活用を図るため「地下から取った水は、取った分だけ地下に還す」を基本的な行動規範とし、人為的な涵養（※）の取組量を定めます。

※涵養…地表水を地下に浸透させること

水環境マネジメントと地域経済
好循環サイクルの構築

「水使用量の可視化」や「地域参加の合意形成・意識啓発」「資金調達」等を進め、施策実現に向けた環境づくりをします。

注目情報 5

水は、次世代からの預かりもの
水環境基本計画・行動計画
市では、先人から引き継いできた豊かな水環境を、将来にわたり保全するため、水環境基本計画と同行動計画を策定しました。

